

# 「丹波市地球温暖化対策実行計画」 ∞平成27年度 進捗状況報告（平成26年度実績）∞

「地球温暖化対策の推進に関する法律」第20条の3第10項に基づき、平成25年度に策定した「丹波市地球温暖化対策実行計画」（第二期実行計画）の進捗状況を報告、公表します。この計画では、実行計画の数値目標の達成状況等を把握し、温室効果ガスの排出抑制を行うことで、地球温暖化対策に取り組んでいくことを目的としています。

## ☆計画の概要☆

- ◎計画の基準年：平成24年度
- ◎実行計画期間：平成26年度～平成30年度（5年間）
- ◎調査対象施設：庁舎を含めた公共施設

### 【計画で対象となる温室効果ガス】4種類

- ・CO<sub>2</sub>（二酸化炭素）、
- ・CH<sub>4</sub>（メタン）、
- ・N<sub>2</sub>O（一酸化二窒素）、
- ・HFC（ハイドロフルオロカーボン類）

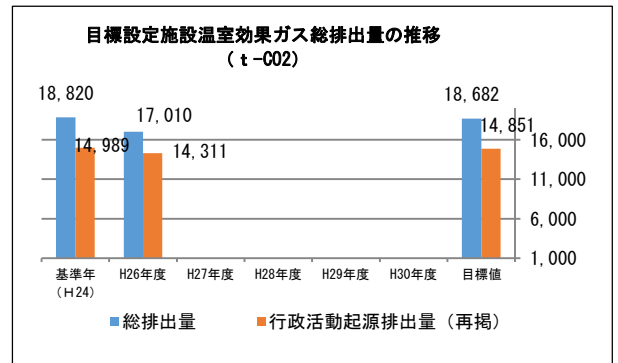
- ◎基準年の温室効果ガス総排出量 **18,820t-CO<sub>2</sub>**
- ☆行政活動起源 **14,989t-CO<sub>2</sub>**
- ☆廃プラスチック起源 **3,831t-CO<sub>2</sub>**

★削減目標★基準排出量（18,820t-CO<sub>2</sub>）に対し  
0.7%（138t-CO<sub>2</sub>）削減

## ☆平成26年度温室効果ガス排出状況☆

- ◎平成26年度温室効果ガス総排出量 **17,010t-CO<sub>2</sub>**
- ☆行政活動起源 **14,311t-CO<sub>2</sub>**
- ☆廃プラスチック起源 **2,699t-CO<sub>2</sub>**

## ●温室効果ガス排出量の推移



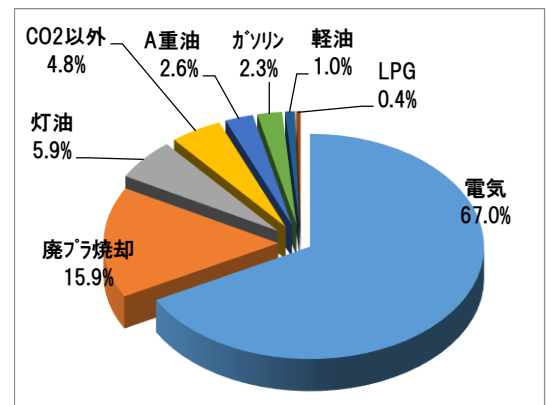
## 平成26年度温室効果ガス総排出量

排出量は17,010t-CO<sub>2</sub>となり、基準年の排出量（18,820t-CO<sub>2</sub>）に対して1,810t-CO<sub>2</sub>（9.6%）減少しました。丹波市豪雨災害による公用車の使用頻度が大幅に増えたことにより、ガソリン排出量は増加しましたが、全体としては減少しています。

## ◎行政活動起源による排出量の減少理由

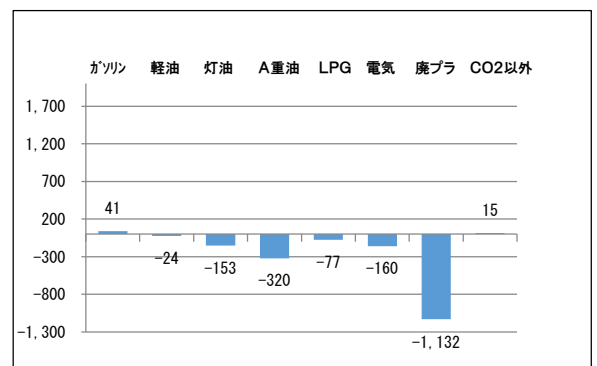
全体的に排出量は減少傾向にあり、なかでも木質バイオマスボイラーの導入によるA重油の排出量と山南地域の学校給食調理場（自校方式）の廃止によるLPGの排出量が大きく減少しています。

## ●温室効果ガス排出源構成（H26実績）



## ●排出源別温室効果ガス排出量及び増減状況（単位：t-CO<sub>2</sub>）

| 項 目                       | H24 年度<br>排出量 | 平成26年度 |        | 増減     |
|---------------------------|---------------|--------|--------|--------|
|                           |               | 排出量    | 基準年対比  |        |
| 燃 料                       | ガソリン          | 357    | 398    | 11.5%  |
|                           | 軽油            | 184    | 160    | -13.0% |
|                           | 灯油            | 1,162  | 1,009  | -13.2% |
|                           | A重油           | 765    | 445    | -41.8% |
|                           | LPG           | 161    | 84     | -47.8% |
| 電気                        | 11,557        | 11,397 | -1.4%  | -160   |
| 廃プラスチック焼却                 | 3,831         | 2,699  | -29.5% | -1,132 |
| CO <sub>2</sub> 以外の温室効果ガス | 803           | 818    | 1.9%   | 15     |
| 温室効果ガス全体                  | 18,820        | 17,010 | -9.6%  | -1,810 |



## 温室効果ガス削減に向けての今後の課題

行政活動による温室効果ガス排出量については、全体として基準年に比べ、減少しましたが、今後も設備の利用や運用方法といったソフト面での取り組みを継続させるとともに、現行の設備や機器の更新時に、より省エネ性能の高い設備や機器、システムを導入するなどのハード面での取り組みも充実させることで、温室効果ガスの計画的な削減を図ります。

また、廃プラスチック排出量についても減少していますが、今後もごみの分別の徹底を強化する等、一人ひとりの意識を高め、引き続き温室効果ガスの削減に向けて取り組む必要があります。